

平成30年度 第2回 江別市立病院経営健全化評価委員会

日 時：平成31年3月11日(月) 18時34分～19時39分
場 所：江別市立病院 2階 大会議室

出席者

委員：2名

西澤寛俊委員長、樋口春美委員

(水野克也委員は欠席)

市立病院：12名

富山院長、信太副院長、黒木看護部長、吉岡事務長、千葉次長、
稲田医事課長、池田病院情報システム課長、佐藤放射線科技師長、
高橋臨床検査科技師長、平川臨床工学科技師長、
奥山リハビリテーション科主幹、清水副看護部長
(管理課、医事課、病院情報システム課職員出席あり)

事務局：佐野管理課長、大津財務係長、富岡主任

次 第

- 1 開会
- 2 院長あいさつ
- 3 議題 (1) 平成30年度診療収益の状況について
(2) 平成30年度補正予算案概要について
(3) 平成31年度予算案概要について
・医師数の状況について
(4) 新公立病院改革プランの指標管理について

	18:34 開会
佐野課長	委員の皆様、本日は大変お忙しい中、平成30年度第2回江別市立病院経営健全化評価委員会にご出席いただき、ありがとうございます。 それでは、本日の開催に先立ちまして、院長よりご挨拶をお願いいたします。
	———— 院長挨拶 ————
富山院長	委員の皆様、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。 一応次年度の予算案は通過したという話ではあるのですが、あまり良くはない状況が続いているものですから、是非色々なご意見を聞かせていただければと思います。
佐野課長	早速ではございますが、西澤委員長に進行をお願いいたします。
西澤委員長	それでは第2回江別市立病院経営健全化評価委員会を開会いたします。 早速ですが議題に移りたいと思います。 議題1について事務局より資料の説明をお願いします。
	———— 議題（1） 平成30年度診療収益の状況について ————
佐野課長	（議題（1）について、資料1に基づき説明）
西澤委員長	ありがとうございます。 全体的に当初の計画を下回っている状況ですね。要因としては9月の地震がありますが、内科医師の不足からこのような状況になっていると。 議題（1）について、樋口先生、何かご意見等ありますでしょうか。
樋口委員	医師不足の課題については皆さん取り組まれていると思いますが、本当に難しい課題だと感じます。
西澤委員長	人的なものは努力しても中々難しいところだと思います。 日本全体でも、医師の需給について、このまま養成していけば2030年には医師が余るから、医師の養成を減らしていくというのですが、我々北海道の感覚からしてみると、とても考えられないなと。 それはそれとしまして、最近働き方改革というもので、これは別に医師だけではないのですが、その中で厚労省のデータで将来人数が足りないということでもあるのですが、足りないという中で、これからの人口減の中で、高齢者は増えるけれども、若い人はいなくなるという、人を増やせない中で何とかやっという、IT化や場合によっては外国人労働者だとかそういうものを活用

してやっていくのが国の方向だと思っています。

中々解決というのは難しいと、特に医師のことは、私の病院でもそうですが、やはり最近足りない状況ですし、全道的にそうだろうと思います。

しかしながら江別市立病院の医療を守るためには、そういう事情はあっても今まで以上に医師の招へいに努力することが必要だと思いますし、今いる現在のメンバーの中で最大限の努力をしていく必要があると思います。苦しいとは思いますが、我々もアドバイスという形でしか言えなくて申し訳ないのですけども。

収益面では、やはり診療科は内科が収入の多くを占めていたので、厳しいと。内科系というのは、全ての科をまとめるというか、最初内科にかかって他の科へ、ということになりますので、内科が減ると他の科への影響も出ると思います。

しかし、内科が減っているから仕方ないではなくて、各科の努力で患者を集めることができないかという工夫もしていかなければならないと思います。

それと、ベッドを減らして、その収入が減ってしまっていますが、その分経費が同じ割合で減るわけではないです。基本的な部分の経費がありますので、そういうことを理解しながらやっていかないと中々難しいと思います。

多少長くなりましたが、本当に今、危機的な状況だと思います。これを何とか乗り越えていくには、協力しながらやっていくしかないと思います。

それでは議題2について事務局から説明願います。

—— 議題（2） 平成30年度補正予算案概要について ——

（議題（2）について、資料2により説明）

佐野課長

ありがとうございます。

この数字のこと、公立病院の会計というのは中々難しいものがあります。

議題（2）について、何かご質問等ありますでしょうか。

西澤委員長

（なし）

今年の収益等の関係を見ていくと、最初の時から赤字予算であると。

しかしながら収入の方は、今まではこれくらいにしたい、というような数値でしたが、今補正の数値は30年度の実態に近い数値にしていると思います。今回は希望的なものではなく、これまでになく厳しい数値になっていると思いますし、これくらいの収入は絶対に得なければ駄目であるというような数字であると私は思っていますがそういう認識でよろしいですか。

西澤委員長

考え方としてはそれに近い形で編成しております。

佐野課長

西澤委員長

そういうことで今回の収入というのは、最低限これは実現しようと、本来であればこれより簡単に収入は増えると思うので、できるだけこの予算を超える収入を確保できるように頑張っていただけだと思います。

累積欠損金はすごい額になっています。公立病院というのは、ある程度公的な役割ということで、不採算等の医療支えると言われていますが、最近はかなり厳しくなって、公立病院でも改革が行われています。少なくともこれ以上は増やさないという気持ちでもって行って欲しいと思います。

私たちの法人では、こうした数値はひっくり返るような数値です。経営数値については、かなり職員に対しても真剣に言っていますし、我々民間のオーナーというのは、もしここが駄目になったらという思い、職員に対しても私一人では責任を負えないな、というように考えないといけないですし、予算を立てる際には、月あたりいくらというように毎月の経営データを厳しく確認しています。

収益が減って、次の月もまた減ったとなると何もしていないということなので、前月の決算と、今どうなのかという比較をして、増えていけばきちんと対応しているなど、減っていれば何もしていないという評価をきちんとしています。

それに加えて、私は職員自身が経営感覚を持たなければならないと思ってずっとやって参りました。経営感覚を持つということは、民間だけではなくて公立も同じだと思います。幹部の方々は、ぱっと数値を見た時に色々なことをすぐ分かるような、そういうようになることをきちんとやった方が良いのかなと思います。

かなり厳しいことですが、職員一人一人がきちんとした自覚を持った中で、しっかりやってください。

それでは議題3について事務局より資料の説明をお願いします。

——— 議題（3）平成31年度の予算案概要について ———
（議題（3）について、資料3と資料4により説明）

佐野課長

西澤委員長

ありがとうございます。

30年度は予算に対して収入はかなり低い実態にあると、その実態に合わせて31年度は何とかこれ位はいきたい、という思いと、いけるのではないかと、という数字であるとも思いますので、この68億という数字を持ってきています。

病床利用率はベッド数が減っているのですが、利用率は上がるけども、実際の患者数は減っているということでご理解いただければということです。

議題（3）について、何かご質問等ありますでしょうか。

樋口委員	<p>西澤先生がおっしゃっていただいたことは私も本当にそう思います。</p> <p>数字を見ながら職員が集まる機会があればと思います。民間病院ですと、毎月、管理職で経営データを共有して、患者数とか平均在院日数とか紹介率とか手術件数とか、そうした数字を見ていくと改善策が見つかる時があります。きちんと見て、やっていただけたらなと思います。</p>
西澤委員長	<p>中々厳しいことを言うようですが、数字だけを見ていても分からないので、どうしてこの数字になったのかということは、これは事務方ではなくて、やはり現場です。現場の方々が少しでもそういう感覚を持っていただくことはすごく大事だと思っています。</p>
西澤委員長	<p>31年度の予定医師数は資料のとおりで、予定としてはこういう数字ですが、目標としては31年度が終わったときに、医師数は減ることはなく、逆に増えていたということを私たちは期待したいと思います。</p> <p>それでは議題4について事務局より資料の説明をお願いします。</p>
佐野課長	<p>——— 議題（4）新公立病院改革プランの指標管理について ——— （議題（4）について、資料5により説明）</p>
西澤委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>新公立病院改革プランで目標を定めながらやっています。これまで言ったように医師の数が少ないので、達成ができていないということです。せめて少しでも医師を増やして、ということになると思いますので、その努力をよろしくをお願いします。</p>
西澤委員長	<p>訪問診療は一人ですか。</p>
佐野課長	<p>実質は一人です。</p>
西澤委員長	<p>その方は外来とか入院は担当されていますでしょうか。</p>
佐野課長	<p>一部担当はしていただいています。当然専任というわけではありません。</p>
西澤委員長	<p>この中では、訪問看護はかなり頑張っているところなど。頑張っているところはもっと伸ばして、逆に他のところがどうしても伸びないのであれば、他のところを伸ばすということも大事です。頑張っているところに更に頑張れということにはなってしまいますが、頑張ってもらうことで、そこが特徴となって、他の所にも良い影響がでるのではないかと思います。</p> <p>中々厳しい数字ですけれども、実際の数字だけではなくて、どうしてこの数</p>

西澤委員長	<p>字なのかということをごきちんとしていただければと思います。</p> <p>何かご質問等ありませんでしょうか。</p>
富山院長	<p>両先生にお聞きしたいことがあるのですが、来年度の予算では病床利用率が85%、ここ数年では経験したことがないような数字なので、その辺り、医療界やタスクシフトの関係で、近頃のトレンド等で何か参考になることがあれば教えていただきたいと思います。</p>
樋口委員	<p>他の病院に見学に行ってきたらちゃんと見ると、こういう風にやっているのだということが一番分かると思います。内部だけでは中々難しいかなと思います。</p>
西澤委員長	<p>私もほとんど同じではあるのですが、内部だけでやっていると、今まで利用率が60%程度しかなかったのが、急に増えるとなるとパニックになってできないということになってしまうので、そこを変えることは中々難しいと。努力してもこれまでそういう風にやって来たのですから、難しいと思います。どこかしらやってるところから学ぶ方が手取り早いと思います。</p> <p>樋口先生も色々分かってらっしゃるし、私のところでもそういうのがありますし、少ない時間の中で、そういう所に研修に行くのも大変だと思いますが、何とかそういう時間を作っていただければと。</p> <p>今、国の方では空床のベッドはできるだけなくすという様な話になっていて、各病院はベッドの稼働率を高めようという努力をしていますので、是非その辺りは他で学んでいただきたいと思います。そうすると、意外とこういうことで簡単に出来るのだということは結構あるのではないかと思います。</p> <p>かなり厳しい事を言いましたが、やればできるという気持ちで、あまり落ち込んでいくのではなくて、希望を持ちながらやっていただきたいなと思います。</p> <p>————— その他 —————</p>
西澤委員長	<p>それではその他について、何かありますでしょうか。</p> <p>(なし)</p>
西澤委員長	<p>それでは以上をもちまして江別市立病院第2回経営健全化評価委員会を終了いたします。</p> <p>19:39 閉会</p>